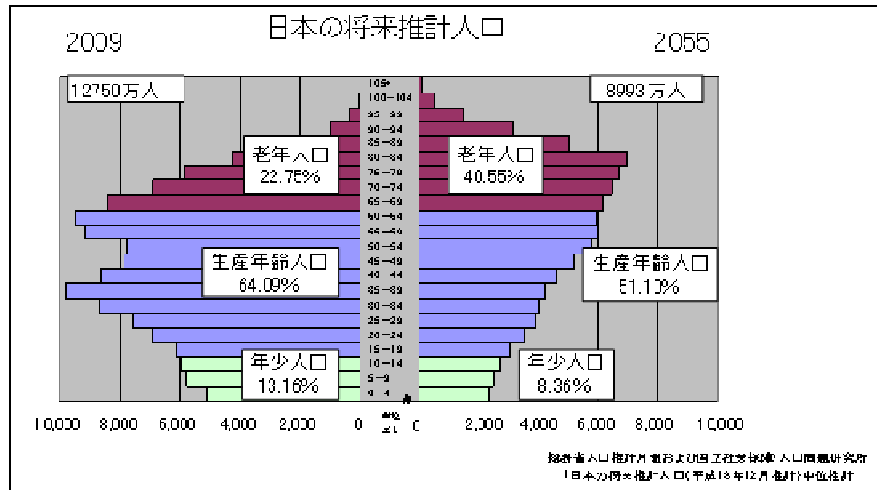


ATTENTION

見過ごせない日本の深刻な人口問題



日本の人口は、平均的な推計で2055年には9000万人を割り込み現在より30%減るといわれています。経済成長を担う生産年齢層(15歳～64歳)の減少はもっと深刻で、実に44%も減ります。一方で老年層(65歳～)は、全体の人口が大幅に減る中、26%増えたと見込まれます。GDPの成長は生産年齢層を増やすことと労働生産性を上げることとされます。労働生産性は老年人口が労働力に回っても上げるのはむずかしく、生産年齢層の増加が喫緊の課題として求められるのです。現在出生率はやや上がったとはいえ、1.41人。たとえこの数字が2人になっても、日本の人口は2070年まで減り続けます。出生率の増加のみならず、抜本的な人口増加策を、国を上げて打ち立てる必要があるでしょう。移民の促進は有力な選択肢の一つです。IT・医療・環境などの高い知識や技術の保有者、介護・福祉、農林水産業など労働集約型事業に携わる人材は今後多くのニーズが生まれるでしょう。ピーター・ドラッカーは「人口動態ほど先行きを読める指標はない」といっています。手をこまねている時ではありません。今すぐ実行に移すべきです。

OPINION

いま、アフリカが熱い！投資先としても注目すべき。

5年に1回のアフリカ開発会議が6月開催され、日本でもアフリカが注目されています。

アフリカは過去10年の平均成長率が5%強に上り、アジアに次ぐ成長市場に台頭しています。中でもサハラ砂漠以南のサブサハラ地域には手付かずの資源が豊富にあり、人口1億7千万人のナイジェリアを中心に、今後のアフリカ経済成長の核になると見られています。アフリカの人口は現在約10億人ですが、30年にはインド・中国を抜き、2050年には22億人に増える見込まれ、今世紀後半には、世界人口の4割近くをアフリカが占めるといわれています。また若年層が人口の過半を占めるようになり、近い将来、大消費市場が誕生すると予想されます。

投資家にとっても大きな魅力があります。欧州ではアフリカ投資ファンドが次々に立ち上げられ、ある運用会社は200億円、6本の投資ファンドを運用し、アフリカ株のリターンは12年度に47%、13年度も36%のプラスが見込まれるとのことです。ただ問題は、金融市場が未成熟なこと。12年度末の主要市場(南ア、エジプト、ナイジェリア、ケニア、モロッコ)株式時価総額は約66兆円ですが、このうち南アが3分の2を占めている状況で、アフリカ54カ国中ほとんどの国は金融市場が育ってなく、民間投資を受け入れられる状況にないそうです。しかしながら、その大きな成長可能性から、投資先としてアフリカからは目が離せません。

MARKET

| | (6月末) | (前月比) |
|------|------------|-----------|
| 日経平均 | 13677.72円 | +88.69円 |
| NYダウ | 14909.60ドル | -205.97ドル |
| 米ドル | 99.18円 | -1.28円 |

今月の言葉：

人々の積極的な活動の相当部分は、数学的な期待よりは、自然に湧いてくる楽観論によるものです。たぶん、結果の全貌が何日もたたないとわからないようなことを積極的にやろうという人々の決断は、ほとんどがアニマルスピリットの結果でしかないでしょう。これは手をこまねくより何かをしようという自然に湧いてくる衝動です。

『雇用、利子、貨幣の一般理論』
ジョン・メイナード・ケインズ

日本の株式市場の乱高下はどうして起きるか？

最近の日本株の乱高下には、驚くものがあります。5月23日には1144円安、その日1日の変動幅は1458円。5月30日737円安、6月3日513円安、6月5日安倍首相の第3の矢、成長戦略発表日は520円安、そして6月10日636円高。1日の変動幅が非常に大きく、500円幅で動くのはあたりまえという状況です。大きく変動するということは、リスクが高いことを意味します。そのリスクに見合うリターンが得られればよいのですが、必ずしも日本の場合そうなっていません。その原因を探ってみましょう。

日経平均の変動が大きい要因

1. 日経平均225株価指数は225社の株価の単純平均なので、その指数に採用されている値高株が大きく動くと、日経平均の変動幅が大きくなります。たとえば、ユニクロのファーストリテイリングの株価が35000円から3%上がり、1050円高となり、新日鉄住金の株価が250円から3%上がり、8円高となっても、日経平均の変動への寄与度は、131倍(1050/8)もファーストリテイリングが大きいのです。このように日経平均は、値高株がちょっと動くだけで大きく振れる仕組みになっているのです。

2. さらに重要な点は、「投資家層に短期志向が多い」ことが上げられます。株価を追うレバレッジをかけて商いを膨らませる投資家、日計り売買に明け暮れる投資家、海外投資家でもヘッジファンドなど仕掛け的にトレードする投資家などが勢力を増し、一方に一斉に動いてしまう土壤が株式市場にできています。これはあまり誇れることではありません。いってみれば市場に厚みがなく、「鉄火場」の様相を呈しているのです。

3. なぜそのような市場になってしまうのか、上場企業の経営体質や株主への目線が、根底で非常に大きい問題を抱えているからなのです。コーポレート・ガバナンス(企業統治)が企業寄り、株主還元が薄く、会社の株主重視の姿勢が消極的、株の持ち合いや買収防衛策などで、外部株主の声は届かず、経営者も株価の意識が低いことが、そもそも株式市場の土壤をやせたものになっているのです。そうなりますと、長期的な株価の上昇や増配を期待して長期で保有する投資家は、やせた土壤の株式市場に来なくなってしまいます。そして、株価の変動に賭ける投資家が跋扈するという構図になり、上がり下がりの変動幅の大きい市場になるのです。

SEMINAR

第28回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』

-こうすればしっかりお金を増やすことができる-

大切な資産運用で、本当のことを知るのはいへんむずかしくなっています。いい情報も危ない情報もあふれ、手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品を売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動はますます激しくなっています。思わぬリスクの高い商品を勧められ、取り返しの被ることも珍しくありません。

- なぜ日本だけに投資してはダメか、海外投資の必要性とメリット。
- 本当に正しい資産運用法の実践法-やり方によって人生の分岐点にも。
- 証券会社や銀行がいう通りにしては、必ず失敗する。
- よい金融商品とはどういうものか。
- 安心してお金の相談をできる場所はどこか。

詳細はホームページをご覧ください。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤峰男だから語れる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！

日時 : 2013年7月21日(日)15:00~17:00

場所 : TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml> (最寄り駅:有楽町・日比谷駅)

講師 : 尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

参加費: 1000円(当日支払い)

申込み方法 : メールまたは電話にて「7月21日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール: info@bfsc.jp Tel: 03-6721-8386

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ！

書評ブログ-平日毎日更新

<http://www.bfsc.jp>

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

発行者: びとうファイナンシャルサービス株式会社

代表取締役 尾藤峰男

電話: 03-6721-8386

携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール: info@bfsc.jp